

令和2年1月
発行：依田窪老人保健施設
広報編集委員会
〒386-0603
小県郡長和町古町 3365-5
TEL：0268-68-0281
FAX：0268-68-0283

新年のごあいさつ



施設長
石橋 久夫

新年明けましておめでとございます。利用者の皆様、そして地域の皆様方のご多幸を心より祈念申し上げます。



おたや祭山車 桜町第5場

麒麟がくる 明智光秀「敵は本能寺にあり」の場

昨年は新天皇が即位され、令和の時代が始まりました。上皇陛下から天皇陛下へと受け継がれた「国民と苦楽を共にしながら、常に国民の幸せと世界平和を願われるそのお姿」とても有難く、我々国民一人ひとりも、日本の伝統精神を大切に、人にふさわしい令和の歩みを進めていかなければならないと感じます。

■□人生会議への取り組み□■

「生老病死」は人の常であります。ただ、それだけ多くの人が、この命題に対して真摯に向き合っているでしょうか？ 日々の仕事と生活に追われ、じつくりと腰を据えてこれまでの人生を振り返る機会がなかったというのが現状ではないでしょうか。時には、節目節目で、人生の総括を試みることも有意義であると思われまます。

そこで、厚生労働省は、ACP【Advance Care Planning(アドバンス・ケア・プランニング)】、その愛称としての「人生会議」を全国的に展開しようとしています。その主旨は、本人を中心に、家族の皆さん、医師や多職種職員も参加し、看取りも含めた今後の生き方に関する方針について話し合いや合意

形成を図るといふものです。ただ、厚生労働省の意図としては、延命医療か尊厳死(延命医療の拒否)かという二者択一の選択を迫り、老人医療費を削減したいという思惑が見え隠れします。

当老健いこいにおきましても、昨年7月より、試行錯誤で4名のお年寄りに、この人生会議を開催しました。ご家族、職員からは「こういった話し合いの場が設定されることに意義を感じる。」という意見が多く寄せられ、概ね好評でした。介護認定を受けたお年寄りに、少しでも有意義な人生の終末を過ごしていただけるよう、まずは職員有志で協議検討を重ね、4月より、本格的に人生会議を希望される利用者・家族の皆さんに対して開催していく予定です。ぜひ積極的に申し出ていただきたいと思います。

会議の前に、利用者の皆さんには、人生の中でやり残したことや、今後取り組んでみたいこと、施設職員に対する要望など、いろいろな希望を再確認いただき、それを十分な話し合いの中で、みんなで合意共有し、少しでも満足のいく人生にしたいだけならば、職員にとっても幸せなことだと思います。

また、老健いこいでは、介護施設であるだけではなく、高齢化社会における理想的な看取りを実現するための施設として、「尊厳、満足、感謝、安らか」を合言葉にお迎えを受け入れやすいよう努力しています。大変なことかもしれませんが、堂々とお迎えを受け入れていく覚悟というのでも大切かと思えます。今後、ぜひ老健いこいの人生会議を有効に活用していただきなから、人生を全うしていただけることを全職員が願っています。

「人生会議」とは、アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning)の愛称です。

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やけがをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると、約70%の方が医療・ケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることが出来なくなると言われています。自らが希望する医療・ケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこで、どのような医療・ケアを望むかを、自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取り組みを「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」と呼びます。(厚生労働省ホームページより引用)



『誇りある介護福祉士』

介護福祉士 櫻井貴子

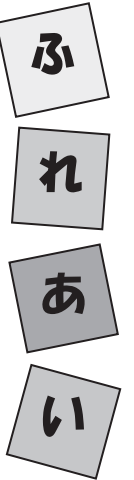
私が介護福祉士として働き始めてから二年が経ちました。介護の仕事に就いて一番大切にしていることがあります。それは「表情」です。人間関係には鏡の法則があると言われていています。人と話をしている最中は自分がどのような顔になっているのかは、自分ではなかなか分かりづらいものです。相手の表情は、自分の表情を映す鏡です。険しい顔をしたり、怖い顔をしたりしていると、相手も険しくて怖い顔をしてしまいます。認知症の方は特に記憶力や思考力、判断力などが低下してしまいます。そのため、自分がなぜここにいるのか、目の前の人が誰なのか分からない状態になり、不安や緊張を感じながら生活することになります。認知症が進んでも、人としての感情の働きがなくなってしまうわけではありません。感情は心の中で長く残っているものです。私は、いつも穏やかな表情で思いやりのある関わり方をするように心がけています。



好印象を与えるのは笑顔が基本ですが、ご利用者の喜怒哀楽に合わせて表情を変え、「あなたの話を聞いていますよ」と表情でも共感を示すようにしています。そうすることでご利用者は安心し、お互いに信頼関係を築くことができるのではないかと考えます。実際にコミュニケーションの中で「いい顔しているね」「お姉ちゃんの顔見ると元気が出る」と言ってくださいます。私はその言葉を励みにとても楽しく仕事に取り組むことができます。また、廊下ですれ違おうと声をかけていただいたり、担当する部署を超えて名前を覚えてもらいとても嬉しく感じています。

介護は大変な仕事であると思いますが、その分やりがいのある仕事です。ご利用者の「在宅復帰」という目標達成に向けて日々試行錯誤し、ご利用者やご家族と悩みながら何かひとつできるようになればいっしょに喜ぶことができます。そして、その時のご利用者の生き生きとした表情を間近で見ることができる、そんな介護福祉士という職に私は誇りを持っています。

石橋施設長が掲げている言葉の中で「利用者満足」という言葉がありますが、「いこいがいい」「いこいに来て良かった」と多くの方々に思ってもらえるように、介護福祉士として心温かなケアをご提供していきたいと思っています。



(令和元年 11月・12月の出来事)

いこい祭り (11月10日)

和田獅子太鼓の威勢の良い演奏でいこい祭りが始まりました。パワーリハビリ体験や、



勇壮な和田獅子太鼓の演奏

長門小学校 2年生交流会

(11月29日)

運動会でのダンスの披露に続き、玉入れや手遊びを楽しみ、みんなが笑顔の輪に包まれました。

忘年会

(入所…12月17日、

通所…12月12・13日)

入所 ボランティアの方によるハーモニカの演奏に合

高齢者疑似体験をしていただいたり、介護予防教室として、体力測定を行い、一人ひとりに合った運動方法等の指導、介助方法や介護施設の相談など、いこいならではの催しを行いました。



介護教室：「歳を重ねるといことは」と題して、高齢者の身体的変化について、パネルを使って説明しました。

わせ、昔懐かしい歌で盛り上がり、職員の出し物「笑いヨガ」でたくさん笑顔が見られました。

通所 地域有志の生演奏で歌の披露がありました。「お腹の中まで音が響き渡り元気が湧いてきた。」と、間近で生演奏を聴いたご利用者は喜んでおられました。

★ 編集後記 ★

新年明けましておめでとうございます。昨年は、台風19号による甚大な被害を受けました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。令和初の新年は、穏やかな幕開けとなりました。今年こそ、「災」と縁遠い良き一年となることを願います。

(編集委員)